

【当用漢字表】

ファイル作成者注記

- ・当用漢字表を、JIS X 0213の包摂規準を受け入れてコード化しました。
- ・JIS X 0213で包摂規準の適用を除外されたものは、別字として扱いました。
- ・このファイルには、JIS X 0213で定義された文字コードを使用しています。
- ・当用漢字表(昭和21年11月16日官報号外内閣告示第32号)には、昭和22年6月9日官報によって、10字に対し、正誤訂正が加えられています。
- ・2001年6月22日以前に公開していたファイルでは、これら10字に対する訂正内容が反映できていませんでしたが、安岡孝一さん(京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター)のご教示を得て、以降のものにはこれを組み入れることができました。
- ・10字のうちの6字(訂正後の字体で示せば、「寧」「通」「辺」「隨」「靈」「髓」)の修正内容は、「点・画の増減」や「抜けるか、抜けないか」など、JIS X 0213の包摂の範囲におさまるものと判断しました。
- ・以下の3字に対する訂正は、JIS X 0213の包摂の範囲におさまらないと考えました。
 - 1頁4段6行 (属)→(屬)
 - 1頁4段36行 紱→紱
 - 2頁1段30行 ※[#「画」の「由」が「田」]→画
- ・2頁3段16行、訂正後「(隱)」の訂正前字体に関しては、「爪冠」の下の「工」が「二」となっているのではないかと、あるいは、「工」と「心」に挟まれる「ヨ」が「日」となっているのではないかなどと想像を膨らませてみましたが、参照できた官報のいずれによっても、確信を持って判断を下すことができませんでした。
- ・よって本ファイルの作成者は、「(隱)」の訂正前字体については、いったん判断を留保します。これについて、判定が可能な資料を参照できる方がおられましたら、画像の提供、もしくは所蔵施設のご教示をお願い申し上げます。
- ・以下に掲げる当用漢字表ファイル中では、包摂の範囲におさまらないと判断した3字と、判断の付かなかった1字に関しては、訂正後の字体を青で示します。
- ・「中」の部首が空白となっているところには、「丨」を補いました。
- ・「丸丹主」の部首が空白となっているところには、「丶」を補いました。
- ・校正には努めましたが、保証はできません。
- ・修正すべき点があれば、info@aozora.gr.jp宛、ご指摘をお願いいたします。

2001年2月1日 作成。

2001年3月2日 「ファイル作成者注記」の文言のみ修正。

2001年3月19日 wakabaさんのご指摘を受けて、Shift_JIS_X_0213としていたCHARSETを、Shift_JISX0213に修正。

2001年3月28日 「【参考】」として、当用漢字表をスキャニングした画像を付加。

2001年6月22日 安岡孝一さんのご指摘を受けて、昭和22年6月9日官報に示されていた訂正内容を反映。(なお、「(属)→(屬)」に関しては、従来のファイルにおいても〈誤って〉訂正してしまっていました。)

青空文庫

●内閣訓令第七号

各 官 廳

当用漢字表の実施に関する件

従来、わが国において用いられる漢字は、その数がはなはだ多く、その用いかたも複雑であるために、教育上または社会生活上、多くの不便があつた。これを制限することは、國民の生活能率をあげ、文化水準を高める上に、資するところが少くない。

それ故に、政府は、今回國語審議会の決定した当用漢字表を採択して、本日内閣告示第三十二号をもつて、これを告示した。今後各官廳においては、この表によつて漢字を使用するとともに、廣く各方面にこの使用を勧めて、当用漢字表制定の趣旨の徹底するように努めることを希望する。

昭和二十一年十一月十六日

内閣総理大臣 吉田 茂

●内閣告示第三十二号

現代國語を書きあらわすために、日常使用する漢字の範囲を、次の表のように定める。

昭和二十一年十一月十六日

内閣総理大臣 吉田 茂

当用漢字表

まえがき

一、この表は、法令・公用文書・新聞・雑誌および一般社会で、使用する漢字の範囲を示したものである。

一、この表は、今日の國民生活の上で、漢字の制限があまり無理がなく行われることをめやすとして選んだものである。

一、固有名詞については、法規上その他に関係するところが大きいので、別に考えることとした。

一、簡易字体については、現在慣用されているものの中から採用し、これを本体として、参考のため原字をその下に掲げた。

一、字体と音訓との整理については、調査中である。

使用上の注意事項

イ、この表の漢字で書きあらわせないことばは、別のことばにかえるか、または、かな書きにする。

ロ、代名詞・副詞・接続詞・感動詞・助動詞・助詞は、なるべくかな書きにする。

ハ、外國(中華民國を除く)の地名・人名は、かな書きにする。

ただし、「米國」「英米」等の用例は、従來の慣習に従つてもさしつかえない。

ニ、外來語は、かな書きにする。

ホ、動植物の名称は、かな書きにする。

ヘ、あて字は、かな書きにする。

ト、ふりがなは、原則として使わない。

チ、専門用語については、この表を基準として、整理することが望ましい。

一部 一丁七丈三上下不且世丘丙

丨部 中

丶部 丸丹主

ノ部 久乏乗

乙部 乙九乳乾乱(亂)

丨部 了事

二部 二互五井亞

一 部 亡交享京

人部 人仁今介仕他付代令以仰伸件任企伏伐休伯伴伸伺似但位低住佐何佛作佳使來例侍供依侮
侯侵便係促俊俗保信修俳佻併(併)倉個倍倒候借傲值倫假(假)偉偏停健側偶傍傑備催傳債
傷傾働像僚僞僧價儀億儉儒償優

儿部 元兄充兆先光克免兒

入部 入内全兩(兩)

八部 八公六共兵具典兼

冂部 册再冒

冫部 冫冠

冫部 冬冷准凍凝

几部 凡

凵部 凵出

刀部 刀刃分切刈刊刑列初判別利到制刷劌刺刻則削前剖剛剩副割創劇劑(劑)劍

力部 力功加劣助努効効勅勇勉動勘務勝勞(勞)募勢勤勳勵(勵)勸(勸)

勹部 勹勹包

匕部 化北

匚部 匠

匚部 匹匿区(區)

十部 十千升午半卑卒卓協南博

卜部 占

卩部 卩危却卵卷卸卽

厂部 厘厚原

厶部 去参(參)

又部 又及友反叔取受

口部 口古句叫召可史右司各合吉同名后吏吐向君吟否含呈吳吸吹告周味呼命和咲哀品員哲唆唐
唯唱商問啓善喚喜喪喫單嗣嘆器噴嚇嚴囑(囑)

口部 囚四回因困固圈國囿(圍)園円(圓)囟(圖)團

土部 土在地坂均坊坑坪垂型埋城域執培基堂堅堤堪報場塊塑塔塗境墓墜增墨墮(墮)墳壘壁壇压
(壓)壘壞

士部	士壯壹(壹)壽
夂部	夏
夕部	夕外多夜夢
大部	大天太夫央失奇奉奏契奔奧奪獎奮
女部	女奴好如妃妊妙妥妨妹妻姉始姓委姬姻姿威娘媼娠婆婚婦媾媒嫁嫡孀
子部	子孔字存孝季孤孫学(學)
宀部	宅宇守安完宗官宙定宜客宜室宮宰害宴家容宿寂寄密富寒察寡寢寔(實)寧審写(寫)寬寮宝(寶)
寸部	寸寺封射將專尉尊尋对(對)導
小部	小少
尢部	就
尸部	尺尼尾尿局居屈(屈)屈屋展層履属(屬)
山部	山岐岩岸岬峰島峽崇崩岳(嶽)
巛部	川州巡巢
工部	工左巧巨差
己部	己
巾部	市布帆希帝帥師席帳帶常帽幅幕幣
干部	干平年幸幹
幺部	幻幼幽幾
广部	床序底店府度座庫庭庶康庸廉廊廢(廢)廣廳
廴部	延廷建
升部	弊
弋部	式
弓部	弓弔引弟弦弧弱張強彈
彡部	形彩彫彰影
彳部	役彼往征待律後徐徑(徑)徒得從御復循微徵德徹
心部	心必忌忍志忘忙忠快念怒怖思怠急性怪恆恐恥恨恩恭息悅悔悟患悲悼情惑惜惠惡惰惱[惱] 想愁愉意愚愛感慎慈態慌慕慘(慘)慢慣慨慮慰慶憂憎憤憩憲憶憾懇應懲懷懸恋(戀)
戈部	成我戒戰戲
戶部	戶房所扇
手部	手才打扱扶批承技抄抑投抗折抱抵押抽拂拍拒拓拔拘拙招拜括拷拾持指振捕捨掃授掌排掘 掛採探接控推措描提揚換握揭揮援損搖搜搬携搾摘摩撤撮撲攤扱(擇)擊操担(擔)扱(據)擦 拳(拳)擬抃(擴)攝
支部	支
支部	收改攻放政故敘教敏救敗敢散敬敵敷数(數)整
文部	文
斗部	斗料斜
斤部	斤斥新斷(斷)
方部	方施旅旋族旗
无部	既
日部	日旨早旬昇明易昔星映春昨昭是時晚晝普景晴晶暇暑暖暗暫暮暴曆曇曉曜
日部	曲更書替最会(會)
月部	月有服朕朗望朝期
木部	木末末本札朱机朽材村東杯東松板析林枚果枝枯架柄某染柔查柱柳校株核根格栽桃案桑梅 條械棄棋棒森棺植業極榮(榮)構概樂樓(樓)標樞(樞)模樣樹橋機橫檢櫻欄權(權)
欠部	次欲欺款歌歐(歐)歡(歡)
止部	止正步武歲歷歸(歸)
歹部	死殉殊殖殘(殘)

殳部	段殺殿毆(毆)
母部	母每毒
比部	比
毛部	毛
氏部	氏民
气部	氣
水部	水水永求汗汚江池決汽沈沒沖河沸油治沼沿況泉泊泌法波泣注泰泳洋洗津活派流浦浪浮浴海浸消涉液涼淑淚淡淨深混清淺(淺)添減渡測港渴湖湯源準溫溶滅滋滑滯滴滿(滿)漁漂漆漏演漢漫漸潔潛(潛)潤潮溢澄沢(澤)激濁濃濕濟(濟)濫浜(濱)澆(瀧)瀨灣(灣)
火部	火灰災炊炎炭烈無焦然煮煙照煩熟熱燃燈燒營(營)燥爆炉(爐)
爪部	爭爲爵
父部	父
片部	片版
牛部	牛牧物牲特犧(犧)
犬部	犬犯狀狂狩狹猛猶獄独(獨)獲獵(獵)獸猷(獻)
玄部	玄率
玉部	玉王珍珠班現球理琴環璽
甘部	甘
生部	生產
用部	用
田部	田由甲申男町界畑畔留畜畝略番画(畫)異当(當)疊
疋部	疎疑
疒部	疫疲疾病症痘痛痢痲療癬
夂部	登發(發)
白部	白百的皆皇
皮部	皮
皿部	盆益盛盜盟盞監盤
目部	目盲直相盾省看眞眠眼睡督瞬
矛部	矛
矢部	矢知短
石部	石砂砲破研(研)硝硫硬碁碎碑確磁礁礎
示部	示社祈祉祕祖祝神祥票祭禁禍福禪礼(禮)
禾部	秀私秋科秒租秩移稅程稚種称(稱)稻稿穀積穗穩(穩)穫
宀部	穴究空突窠窓窮窠窃(竊)
立部	立並(竝)章童端競
竹部	竹笑笛符第筆等筋筒答策箇算管箱節範築篤簡簿籍
米部	米粉粒粗粘粧粹精糖糧
糸部	系糾紀約紅紋納純紙級紛素紡索紫累細紳紹紺終組結絕絞絡給統糸(絲)絹經(經)綠維綱網綿緊緒線締緣編緩緯練縛縣縫縮縱總(總)績繁織繕繪(繪)繭繰繼(繼)統(續)織
缶部	欠(缺)
网部	罪置罰署罷
羊部	羊美着群義
羽部	羽翁翌習翼
老部	老考者
而部	耐
耒部	耕耗
耳部	耳聖聞声(聲)職聽

聿部	肅(肅)
肉部	肉肖肝肥肩肪肯育肺胃背胎胞胴胸能脂膏脈脚脱脹腐腕腦(腦)腰腸腹膚膜膨胆(膽)臟
臣部	臣臨
自部	自臭
至部	至致台(臺)
臼部	與興旧(舊)
舌部	舌舍舖
舛部	舞
舟部	舟航般舶船艇艦
艮部	良
色部	色
艸部	芋芝花芳芽苗若苦英茂茶草荒荷莊荃(莖)菊菌菓菜華万(萬)落葉著葬蒸蓄溥薦薪薰藏藝藥 藩
虍部	虐処(處)虛虜虞号(號)
虫部	蚊融虫(蟲)蚕(蠶)蚕(蠶)
血部	血衆
行部	行術街衝衛衡
衣部	衣表衰衷袋被裁裂裏裕補裝裸製複襲
西部	西要覆
見部	見規視親覓(覺)覽觀(觀)
角部	角解觸(觸)
言部	言訂計討訓託記訟訪設許訴診詐詔評詞詠試詩詰話該詳誇誌認誓誕誘語誠誤說課調談請論 論諮諸諾謀謁謄謙講謝謠謹証(證)識譜警訊(譯)議護譽(譽)誦(讀)變(變)讓
谷部	谷
豆部	豆豐(豐)
豕部	豚象豪予(豫)
貝部	貝貞負財貢貧貨販賈責貯貳(貳)貴買貸費賀賀貨賄賂資賊賓賜賞賠賢賣賦質賴購贈贊(贊)
赤部	赤赦
走部	走赴起超越趣
足部	足距跡路跳踊踏踐(踐)躍
身部	身
車部	車軌軍軒軟軸較載輕(輕)輝輦輪輸轄轉
辛部	辛弁(辨瓣辯)辭(辭)
辰部	辱農
辵部	込迅迎近返迫迭述迷追退送逃逆透逐途通速造連逮週進逸遂遇遊運遍過道達違滬(遞)遠遣 適遭遲(遲)遵遷選遺避還辺(邊)
邑部	邦邪邱郊郎郡部郭郵都鄉
酉部	配酒酢酬酪醇酷酸醉醜医(醫)釀
采部	积(釋)
里部	里重野量
金部	金針鈍鈴鉛銀銃銅銑銘銳鋼錄錘錠錢(錢)錯鍊鍛鎖鎮鏡鐘鉄(鐵)鑄鑑鉞(鑛)
長部	長
門部	門閉開閑問閣闕閱闕(關)
阜部	防阻附降限陞院陣除陪陰陳陵陶陷陸陽隆隊階隔際障隣随(隨)險隱(隱)
隶部	隸
隹部	隻雄雅集雇雌双(雙)雜離難
雨部	雨雪雲零雷電需震霜霧露靈(靈)

青部	青靜
非部	非
面部	面
革部	革
音部	音韻響
頁部	頂項順預頒領頭題額顏願類顧顯
風部	風
飛部	飛飜
食部	食飢飲飯飼飽飾養餓余(餘)館
首部	首
香部	香
馬部	馬駐騎騰騷驅(驅)驗驚馱(驛)
骨部	骨髓(髓)体(體)
高部	高
髟部	髮
鬥部	鬪
鬼部	鬼魂魅魔
魚部	魚鮮鯨
鳥部	鳥鳴鷄
鹵部	塩(鹽)
鹿部	麗
麥部	麦(麥)
麻部	麻
黃部	黃
黑部	黑默点(點)党(黨)
鼓部	鼓
鼻部	鼻
齊部	齋(齋)
齒部	齒(齒)齡(齡)